

インターバンクの声（2017年8月9日）

今週の外国為替市場は、米卸売物価指数や米消費者物価指数の発表まで動きたくても動けないとの見方が大勢だったが、昨夜はユーロの1.18ドル台前半からの100ポイント急落などを中心に、日本時間の午後11時頃にドル買いが急に強まった。ロンドン市場では徐々に円買いとなっていたドル円も110円30銭台から80銭台までドルが買い戻され、普段この時間帯では動きが小さい豪ドルも40ポイント近く下落した。

米労働省が発表した6月の求人離職統計(JOLT)の求人件数が統計を開始して以来最多の水準となったことが理由だったらしい。「らしい」としか言えないのは、市場はいつもこの指標は軽くスルーすることがほとんどで、社内外のディーラー仲間も異口同音にJOLT以外に理由が見当たらなかったと言っていたためだ。

同時に米長期金利も上昇していたが、それもわずか数ベースだったことを考えると、一部の投機筋に上手く利用された感じだ。ただ、その後はトランプ大統領の北朝鮮に強硬的な発言や、北朝鮮が核弾頭をミサイル搭載が可能な水準まで小型化することに成功したとの報道があって再びドル買いになる前の水準に戻ってきた。

110円を割ってさらに下値を目指すのか注意したい。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。